

# ふくしまを盛り上げるテレビ

中テレSDGsアクションレポート 2021年4月~2022年3月



福島中央テレビ



福島中央テレビは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

中テレSDGs特設ページはこちら

株式会社 福島中央テレビ 福島県郡山市池ノ台13-23 024-923-3300(代表)


# ふくしまの課題解決＝ ふくしまを盛り上げる

東日本大震災と原発事故からの復興への道を歩みを進める中で、新たな自然災害や長引くウイルスの脅威にさらされ、地域経済の衰退や人口減少など様々な課題を抱える福島県。

そうした中で、命を守る情報や生活に役立つ情報を多くの県民に届け、地域が直面している課題を解決するため、自治体や企業、団体と県民を繋ぐハブとなって“大きな力”に昇華していくことが私たち地域メディアの役割です。

「ふくしまを盛り上げるテレビ」をコーポレートスローガンに掲げる私たちは、福島が抱える課題をSDGsの視点で見つめ直し、その課題解決に向けた取り組みを進めています。

このレポートがステークホルダーの皆様と一緒に福島の今と未来について思いを交わす機会となれば幸いです。



自然 ゆたかへて”  
世界中の子ども達か  
遊びに来られる  
福島に！！

# 環境

- 番組** プンケン歩いてゴミ拾いの旅  
ふくしまからゼロ・カーボンへの挑戦
- イベント他** 海と日本プロジェクト  
ふくしま海ごみ削減プロジェクト
- シンポジウム** みんなのふくしま環境シンポジウム  
再生可能エネルギーからふくしまの未来を考える

# 経済

- 番組** ふくしま未来ストーリー
- 番組** Good For the Planet ウィーク

# 社会

- 研修会** カラーユニバーサルデザイン研修会  
子ども食堂勉強会
- 番組** 働く女性応援キャンペーン「MyLife」
- キャンペーン** 中テレクリスマスドリーム  
アフリカ支援プロジェクト



番組を通じた啓発  
のべ視聴者数

約 **800** 万人<sup>※1</sup>

対象期間: 2021年4月~22年3月末

各地域団体への  
チャリティ額

約 **40** 万円

海洋ごみ削減に向けた清掃活動

参加人数

拾ったごみの重さ

**のべ** 約 **3** 千人

約 **10** トン<sup>※2</sup>

2022年3月7日現在

啓発CM

60秒

15秒

**133** 本

**507** 本

※1 対象番組: プンケン歩いてゴミ拾いの旅(50回)、ふくしま未来ストーリー(合計48回。ゴジてれChu!コーナーも含む)、海と日本プロジェクトミニ番組(30回)、MyLife~はたらくでかがやく~(4回)を対象に、福島県の人口と個人視聴率を用いて福島中央テレビが推計した人数です。

※2 「プンケン歩いてゴミ拾いの旅」、「ふくしま海ごみ削減プロジェクト」での清掃活動の累計重量

# 環境課題 に対する取り組み

福島県は生活系のごみ排出量で都道府県ワースト2位(2019年度)という現状から、番組やイベントを通して県民の「ごみ」に関する問題意識向上を図り「捨てない・拾う」といった県民への啓発活動を推進しました。

## ごみ拾いを県民運動に!

県内を歩いてごみ拾い

(2020年1月1日~2022年3月28日)

2年間で約 **9.1** トンを回収 YouTube 累計再生回数 **111,884** 回



**Chu!** 毎週 月曜日  
午後 3:50~4:50  
Hulu、中テレYouTubeチャンネルでも配信中

夕方情報ワイド番組「ゴジてれChu!」の人気コーナー。ブンケンさんが県民と触れ合いながら59市町村の様々な場所でごみ拾い活動を展開しています。少しでもごみを減らし、捨てる人がいなくなるよう持続可能な環境美化を目指しています。



道端に落ちているゴミは、ただのゴミにあらず。拾えば拾うほど自然豊かな福島県を取り戻すことが出来るとの思いから、拾うごみを「希望のカケラ」と名付けポジティブなメッセージを視聴者に届けています。



番組を通してごみ拾いの輪が年々広がり、多くの視聴者から「ブンケンさんと一緒にごみ拾いがしたい!」という声が寄せられています。地域の人や子どもたちと共に活動する姿を伝えることで、さらにごみ拾いの輪を広げていきます。

合計9回の清掃活動実施で、1,622人参加  
産官学民102団体と連携、アプリを使ってオンライン清掃活動も



▶ 海ごみ削減プロジェクト ◀

県内一斉清掃活動  
団体のべ67団体 合計 **1,170**人が参加

ごみ拾い活動を全県的な取り組みとしていくため「海ごみゼロイーク」に合わせて郡山市・福島市・会津若松市・いわき市・南相馬市の県内5か所で一斉清掃活動を行いました。

6月	県内一斉清掃 ダンロップ・スリクソン福島オープンでの啓発キャンペーン
8月	ジャイアンツ杯中学野球・清掃活動
9月	いわきFC海ごみゼロマッチ 県内一斉清掃
10月	スポGOMI甲子園福島県大会
12月	年末街の大そうじ大作戦
22年 2月	オンライン清掃活動 いわきサンシャインマラソン23年開催祈願清掃活動



ごみ拾いSNSアプリ「ピリカ」を使ったオンライン清掃活動



21年12月1日~31日  
1 年末街の大そうじ大作戦

22年2月6日  
2 オンライン清掃活動

2つのイベントで合計71人参加、15,280個のごみを回収



大会会場がある西郷村の小中学校やプロゴルファーなどが連携した清掃活動を実施したほか、チャリティーブースを開設し集まった浄財を福島県環境保全基金に寄付しました。



スポGOMI甲子園  
福島県大会

社会奉仕活動を「競技」へと変換させた新スポーツで高校生日本一を決める大会をいわき市岩間海岸で開催。30チームが出場し総量273.79kgのごみを拾いました。



# 社会課題 に対する取り組み

社内研修会 2021年10月



報道機関として生活系ごみ排出量ワースト2位・福島県が抱えるごみ問題の現状や最新の情報を正しく伝えていくため、福島大学で環境経済学を研究する沼田大輔准教授を招いた社内研修会を開催しました。



イベント 2021年12月

## 未来につなげよう みんなのふくしま 環境シンポジウム Environment Symposium



SDGsを学ぶ県内の小学3年～6年生を対象に、環境問題の解決に取り組む地元高校生や専門家と一緒に考えるシンポジウムを開催し、インターネットでも配信しました。



JT SDGs貢献プロジェクト助成事業

社内研修会 2021年4月～

ふくしまの社会課題を専門家などから学ぶ社内勉強会  
中テレが学んだことをWEB記事として配信し県民と共有



### 5月 子ども食堂の現状を学ぶ

NPO法人ビーンズふくしまの江藤大裕氏を講師に迎え、地域に住むひとりひとりの思いを持ち寄ることで成り立つ「子ども食堂」について意見交換し、メディアの役割を再確認しました。



### 7月 放送のユニバーサルデザインを研究

国内唯一の色彩研究機関「日本色彩研究所」の名取和幸氏を講師に迎え、色の区別が付きにくい人がテレビ画面をどのような色で認識しているかを学び、防災情報の伝え方を考えました。

特番+イベント 2021年11月、22年2月

## 再生可能エネルギーから ふくしまの未来を考える取り組みもスタート

番組提供・特別協賛:エナジア

2021年11月28日放送



### ふくしまからゼロ・カーボンへの挑戦

福島と沖縄で進む最先端のエコリゾートの取り組みを紹介。そこから様々なゼロ・カーボンへのヒントを探りました。

2022年2月14日開催



### 再エネの最前線を知るシンポジウム

登壇者 星野佳路 (星野リゾート代表) ※VTR出演  
高田 実 (国連経済社会局)  
白石昇央 (エナジア代表取締役社長) ほか

番組 2021年4月～

※不定期コーナー



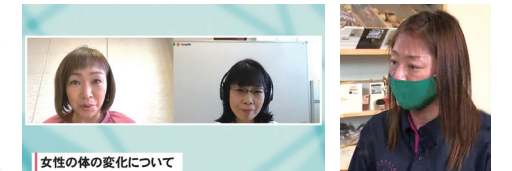
ふくしまの働く女性応援キャンペーン



協賛:大塚製薬 ニュートラシューティカल्ズ事業部 後援:福島県

### 福島で自分らしく活躍する女性を紹介

女性の自己実現を応援し自分らしく活躍できる社会づくりを目指す番組コーナーです。働き続けるためには「健康であり続けること」が大切との観点から、女性特有の悩みを共有して対策や解決法を提案しています。



女性の体の変化について

キャンペーン 2021年12月



毎年多くの参加者を集めるイベントでコーヒー豆の取引先となるアフリカ・ルワンダを支援し続ける「富久栄珈琲」とコラボレーションし、売り上げの一部でアフリカの子供たちにクリスマスプレゼントを贈っています。

# 経済課題 に対する取り組み

SDGsに取り組んでいる企業や団体、個人など「プレーヤー」の皆さんを通年の番組や日テレ系のキャンペーンウィークで紹介。県民への認知や活躍の場を広げるきっかけづくりを目指します。

番組 2021年4月～

## 福島県に関わるSDGsプレーヤー応援番組



番組提供:東洋システム

2021年度 **24人**のSDGsプレーヤーを紹介

平均個人視聴率 **1.5%** (土曜放送) / **6.9%** (日曜放送) 推計視聴者数 **350万人** の人

対象期間:2021年4月～22年3月末 ※ゴジてれChu!内放送も含む

毎月 **第一土曜日** 午前 11:40～11:55  
再放送/毎月第四土曜日 午前11:40～11:55

ふくしま未来ストーリー放送フレーム

- |                       |                         |
|-----------------------|-------------------------|
| 1 ゴジてれChu!報道枠で放送      | 計3回の放送<br>+<br>webアーカイブ |
| 2 第一土曜日に放送「未来ストーリー」   |                         |
| 3 Webでアーカイブ/第四土曜日に再放送 |                         |



ふくしま未来ストーリー特設Webサイト

番組 2021年6月

## 日テレ系のSDGsウィーク

ふくしまから地球に良いこと考える1週間

**GOOD FOR THE PLANET**

#今からスイッチ



日テレ系のキャンペーンに合わせて、自社制作番組でも様々な企画を放送。動物性食品を一切口にしない「ヴィーガンライフ」を体験できるホテルや話題の大豆ミートの生産者などを紹介し、TVerで全国にも発信しました。



# 地域 と連携した取り組み

## ユース世代との取り組み ふくしまの未来を担うユース世代の想いに寄り添い応援

### マイプロジェクトアワード

身の回りの課題や関心をテーマにプロジェクトを立ち上げ、実行することを通して学ぶ高校生たちの探究型学習プログラム取材しニュースなどで紹介しました。

### N/S高の課題解決型プロジェクト学習にアナウンサーが参加

ネットの高校「N高」「S高」が日本テレビと連携して行うSDGsをテーマにした授業にニュースキャスターを務める野尻アナウンサーが講師として参加。全国の高校生世代との対話を通して福島が抱える社会課題を伝えました。



### スポGOMI甲子園

～環境シンポジウムで登壇

10月の「スポGOMI甲子園」に参加した福島成蹊高校JRC・IAC部の生徒が12月の「ふくしま環境シンポジウム」で小学生たちに事例を発表。世代をまたいだ交流を広げました。



## 官公庁との取り組み 地域が抱える課題解決に向けて県や各市町村と連携

### 福島県

コロナ禍でも安心して参加できるオンライン料理教室や健康応援キャンペーンを実施。健康や食への理解を深め、考案されたレシピは学校給食にも採用されました。



### 田村市

子育て応援イベント「にこたむfes.」をオンライン開催。人気タレントとの体操や現役保育士YouTuberとの座談会など親子で楽しめる多彩なコンテンツを実施しました。



## そのほか官公庁と連携したイベント企画

※2020年10月～2022年3月実施

- ・移住定住促進事業(南相馬市)
- ・地域の観光資源磨き上げ事業(白河市)
- ・農林水産物販路多様化対策(農水省)
- ・消費者庁や大学と連携した「食品ロス削減シンポジウム」(政府広報)
- ・子ども食堂や幼稚園における食育講座(農水省)
- ・猪苗代湖の環境美化活動の推進(猪苗代町・郡山市)

# 社内での取り組み

2021年10月、弊社はSDGsへの認識を高め、さらなる行動の活性化を支援する国連の「SDGメディアコンパクト」に加盟しました。2022年も社員一人ひとりの意識を高める取り組みをまいります。

2021年11月～

## 社会福祉施設との連携プロジェクト

11月から循環型農福食協働プロジェクトがスタート。社会福祉法人「にんじん舎の会」と連携して社員食堂で発生する残渣を飼料化し、その飼料を使って育てられたニワトリの卵や加工食品を社内販売しました。食料残渣の資源循環で気候変動対策に寄与するとともに、知的障がい者のみなさんの活動機会創出を実現しています。



2021年4月～

## 社員食堂でのSDGsメニュー

社員食堂では、月に2回、地産地消や環境配慮食材などを使ったメニューを提供。食べることを通じてSDGsの社員への理解浸透・自分ごと化を目指しています。

2022年3月

## 県民SDGs意識アンケート実施

ゴール別関心度は2021年調査に続き「3番:すべての人に健康と福祉を」がトップとなりました。肥満度が男性ワースト2位、女性ワースト1位」(\*)の福島県にあって、県民の課題意識が感じられる結果となりました。また、認知だけではなく「関心」「実行度」の割合が2021年5月調査比で約20ポイント上昇。認知から行動へ。SDGs推進の輪が県内に広がっていることを実感する結果となりました。

名称認知率は97.3%に!  
「80%」がテレビがきっかけで認知

**認知度** | 88% → **97.3%**  
**関心度** | 46% → **65.6%**  
**実行度** | 25% → **42.8%**

\*出典: H27年都道府県別年齢調整死亡率/H28年厚労省国民健康・栄養調査報告/とどらん

2022年3月 販売開始

## SDGsにつながる「カレー」をパートナーシップで開発「ふくしま瓶カレー」

福島市のスパイスカレーの専門店「笑夢カレー」との連携でカレーを通して身近なところからSDGsを考えるきっかけとなる商品を開発。福島県内の規格外野菜や果物、SDGs食材としても注目される大豆ミート(古殿町)をメインに使用し、食品ロス削減や地域の産業の振興に取り組みました。また、福島市内の子ども食堂の協力で子どもたちが「福島のすきなもの」を描き、ラベルデザインに。地元の魅力再発見とともに未来を担う子供たちの自信につながることを願った企画です。収益の一部は子ども食堂に寄付するなど、様々な立場の皆さんと一緒にパートナーシップで地域を盛り上げる活動をすすめています。



# わたしたちが **目指す** **ゴール**

前ページまででご報告してきた取り組みを福島に関わるステークホルダーの皆様と一緒に課題に向き合い、考え、行動し、その取り組みを番組やCMを通じて知っていただき、認知、理解、共感していただいた皆様と一緒に新たなアクションをする。このサイクルで、連携の輪を広げ、ふくしまを盛り上げてまいります。

## ふくしまの課題

- 東日本大震災からの復旧復興
- 自然災害に強い県づくり
- 急激な少子高齢化と人口流出
- 地域の空洞化や分断

## 番組や CMを通した取り組み

地域課題を知ってもらう

## 課題の解決 / 2030年SDGs達成

# ふくしまを 盛り上げる

## 番組や配信企画、 イベント等を通した取り組み

地域の人と一緒に行動する

# 22年度も地域のみなさんとパートナーシップで 社会課題解決に取り組んでいきます